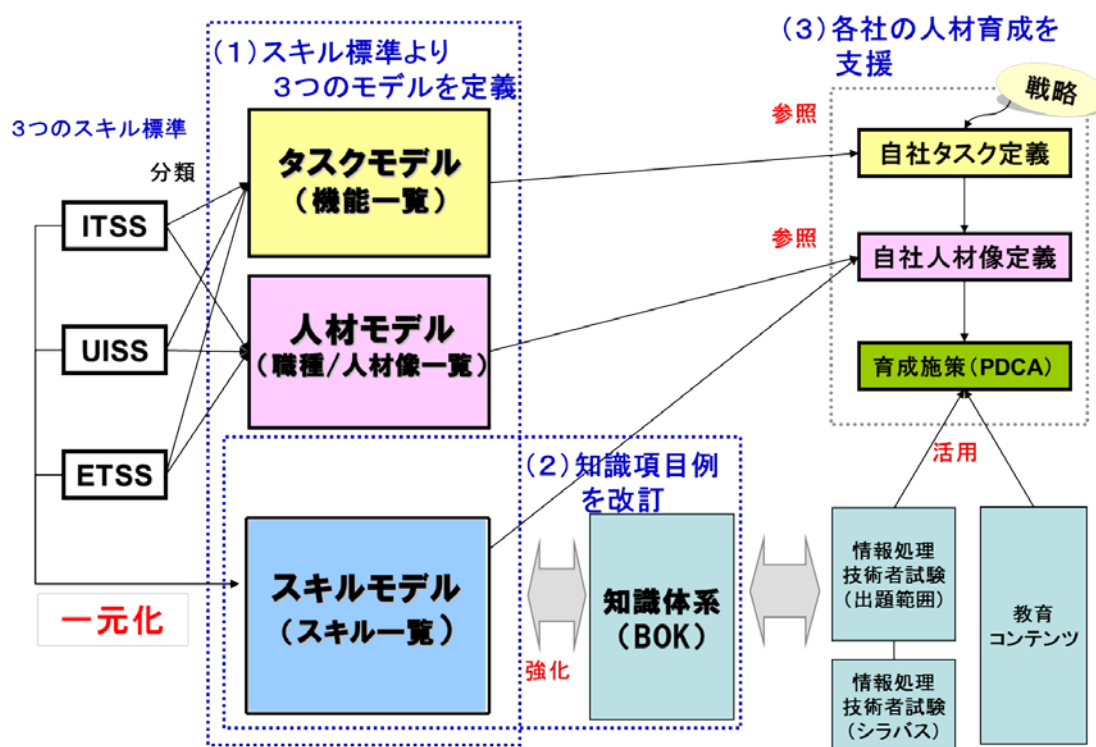


「共通キャリア・スキルフレームワーク¹（第一版・追補版）」における3つの取組み



共通キャリア・スキルフレームワーク（第一版・追補版）の3つの取組み

(1) スキル標準²より3つのモデルを定義

求められる IT 人材の変化に対応していくため、スキル標準における「タスク」、「スキル」、「職種/人材像」に関する情報を整理し、共通の定義情報として、「タスクモデル」「スキルモデル」「人材モデル」（以下、3つのモデルを総称して3モデルと表記）を策定した。（参照：「CCSF モデル一覧」）

企業が、これらのモデルを通して、スキル標準で定義している幅広い領域から必要な情報を活用し、自社のビジネス戦略に沿った人材像を明確にできるように整理した。

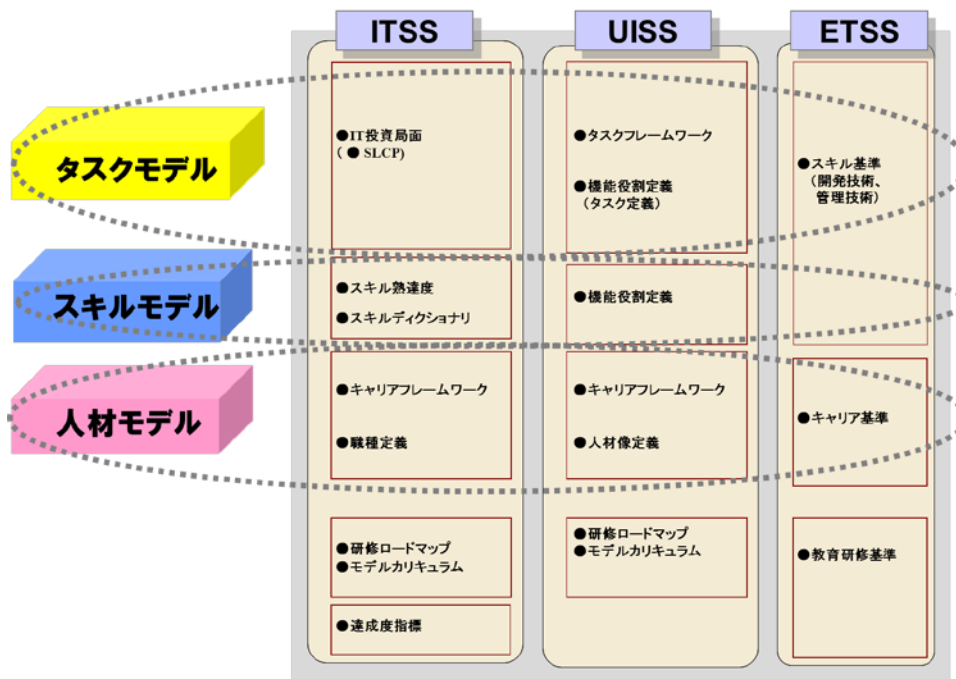
¹ 共通キャリア・スキルフレームワークの略称を CCSF とする。CCSF は、Common Career Skill Framework の略。

² ITSS（IT スキル標準）、UISS（情報システムユーザースキル標準）、ETSS（組込みスキル標準）の3種を指す。IT 国際競争力を強化するために、IT サービスの提供や利用に必要とされる能力を明確化、体系化した指標で IPA が維持管理している。

ITSS (<http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/download.html>)

UISS (http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/uiiss/uiiss_download_Ver2_2.html)

ETSS (<http://sec.ipa.go.jp/ETSS/download.html>)



3モデルとスキル標準コンテンツの関連

<タスクモデル>

- ・スキル標準の「タスク」に関する定義から、求められる機能や役割（課される仕事）を一覧化したものである。
- ・企業は「タスクモデル」を参照して、自社の経営戦略や事業計画を反映した機能や役割の定義を明確にできる。

<スキルモデル>

- ・スキル標準のスキル定義を一元化し、タスクを支える「スキル／知識」として一覧化したものである。
- ・企業は、自社のタスクを絞り込めば、「スキルモデル」から、自動的にタスクに紐づいたスキルセットを抽出できる。

<人材モデル>

- ・スキル標準の「キャリアフレームワーク」の「職種／人材像」が担うタスク（責任をもつ担当領域）を示している。求められるタスクをどう役割分担するかを例示したものである。
- ・企業は、自社に必要なタスクをどのような人材像として役割分担するか、「人材モデル」を参照しながら、自社に必要な人材像として策定できる。

(2) 「知識体系（BOK）」の「知識項目例」を改訂

昨今の技術動向に照らし、「知識体系（BOK：Body of Knowledge）」の「知識項目例」を改訂した。これにより、スキル標準と情報処理技術者試験との整合性を強化し、情報処理技術者試験を企業の人材育成にさらに有効に活用できるようにした。（「CCSFモデル一覧」）

<知識体系（BOK：Body of Knowledge）>

- ・共通キャリア・スキルフレームワークのレベル1からレベル4に必要とされる知識について、体系化したものである。

(3) 各社の人材育成を支援するガイドやデータ、ツールを提供

「共通キャリア・スキルフレームワーク（第一版・追補版）」の公開に合わせ、CCSFを各社の人材育成に有効活用頂くため下記を実施した。

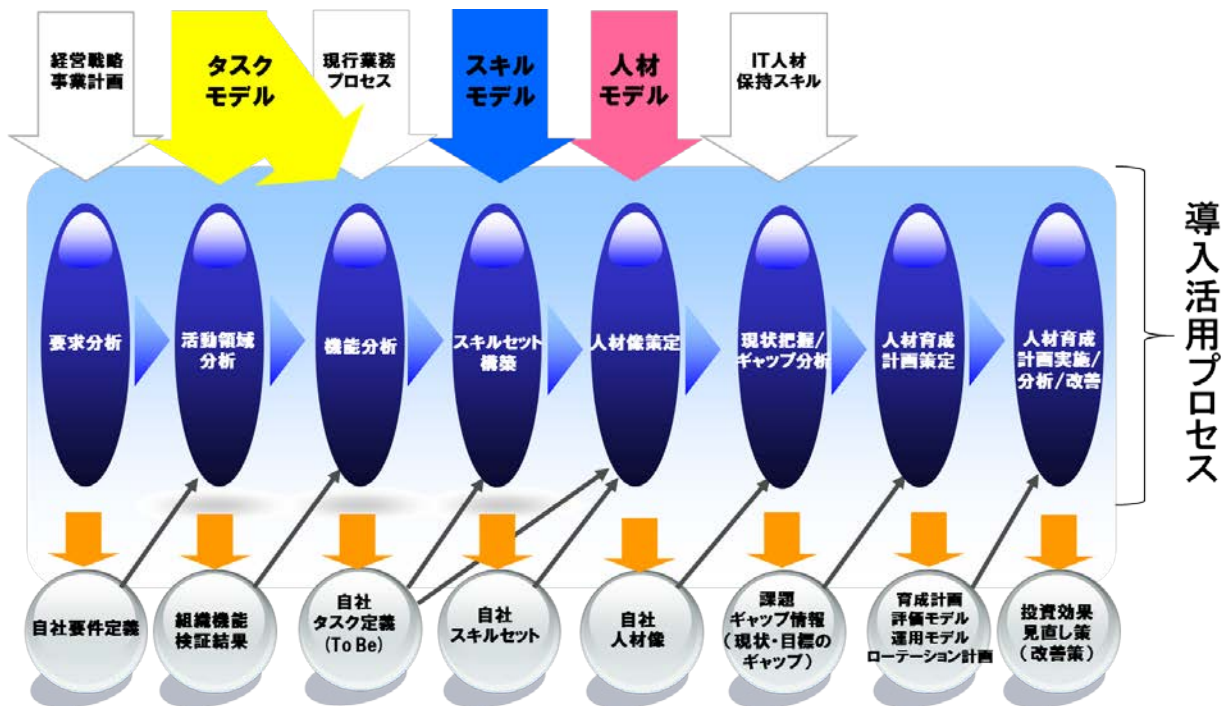
①CCSFを活用するための導入活用ガイドの公開

企業がCCSFを「企業のビジネス目標達成に貢献する人材の育成」に活用できるよう「共通キャリア・スキルフレームワーク（第一版・追補版）コンテンツ活用ガイド」（以下、「活用ガイド」と表記）を公開した。

「活用ガイド」では、以下の2つの活用プロセスを提示している。

・プロセス実行型

「活用ガイド」が示す標準的な「導入活用プロセス³」に沿ってCCSFの3モデルを利活用し、企業が自社のビジネスモデルに合った人材育成施策を検討するための導入活用手順である。



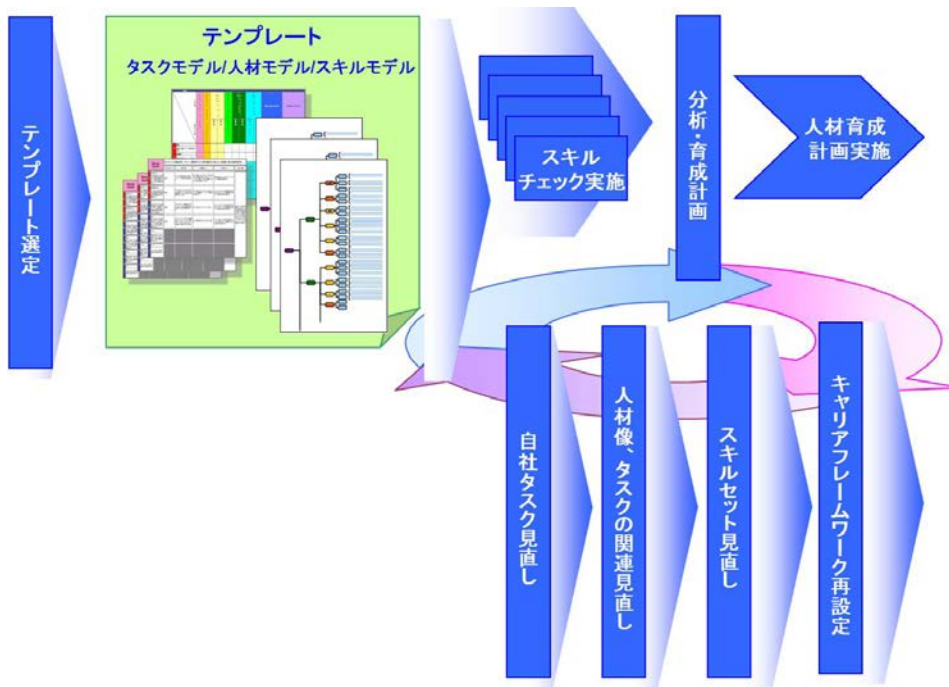
3モデルを利用した「プロセス実行型」導入の流れ

・テンプレート選択型

企業が、自社に近いビジネスモデルのテンプレートを選択し、実際に進めながら手を加え、自社に適したものにカスタマイズしていく簡易導入手順である。

テンプレートに近いビジネスモデルの企業や、これまで導入負荷の高さから導入を見合わせていた企業（中小企業など）の、人材育成施策の検討に有効な手順となっている。

³ 「ITスキル標準活用の手引き」（2009年3月31日発行）、「情報システムユーザースキル標準有効活用ガイド VER. 3.0」（2010年5月14日発行）において、共通の「導入活用プロセス」を提示している。ETSSにおいても、「ETSS導入推進者ガイド」等を通じて、普及を促進してきた。今回このプロセスをスキル標準共通の「導入活用プロセス」として「活用ガイド」を提示する。

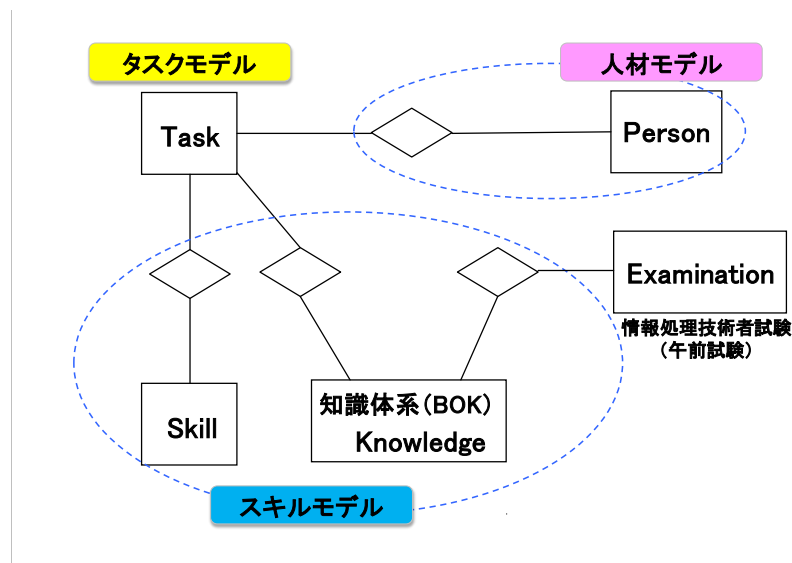


テンプレート選択型 導入の流れ

②CCSF のデータの公開

「活用ガイド」を参考に、企業が CCSF を自由に利活用できるよう、CCSF の CSV ファイルを集めた「CCSF データセット」を公開した。

CCSF は「タスクモデル」を軸に全てが関連づく構造となっている。そのため、企業はスキル標準の構造の違いを意識せず、自社の戦略に合わせて参照したいものを抽出して、「企業のビジネス目標達成に貢献する人材の育成」に活用することができる。



CCSF の 3 モデルの関係図

<CCSF データセットの特長>

- ・ 3つのスキル標準から抽出した情報を、いずれもタスク（機能、役割）と関連つけて整理した。
 - － タスクを定めると、その実施に必要なスキル、および知識が定まる
 - － タスクの組合せによって、その役割を果たす職種または人材像が定まる
- ・ 独立したリレーショナル型なので、目的・用途に合わせて、3モデル何れからでも活用が可能となる。

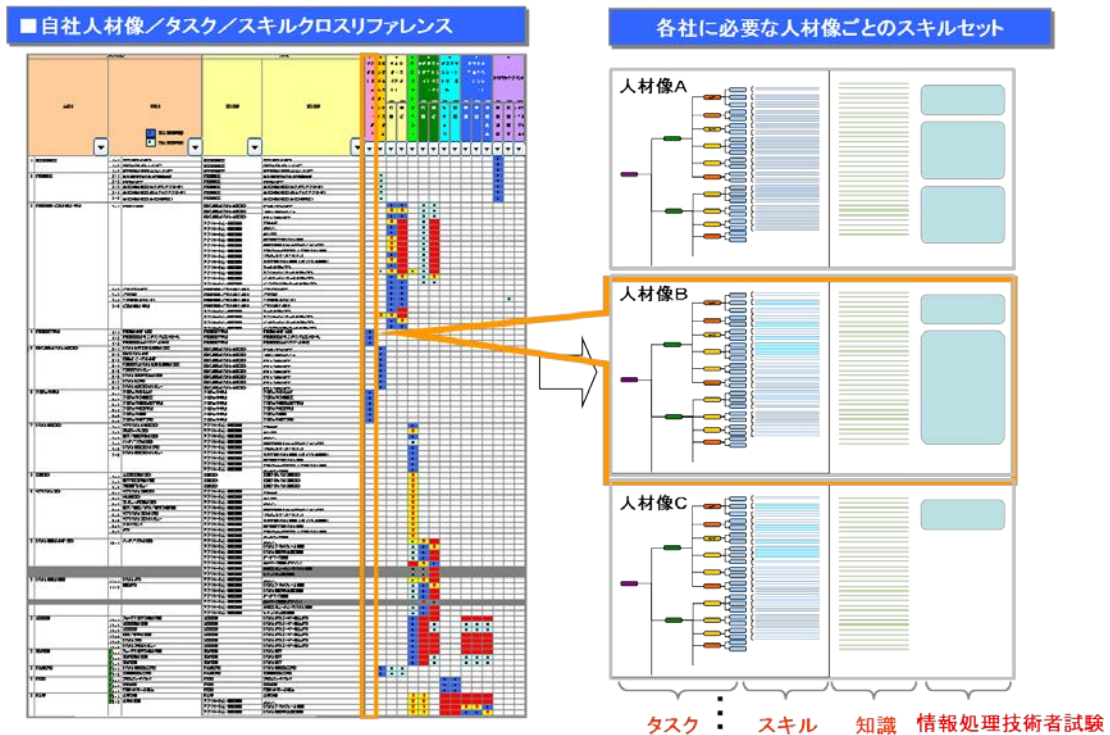
③CCSF 活用ツールの提供

CCSFを「活用ガイド」に沿って、具体的な人材育成施策の見直しや、新たな検討をする際のツールとして、「共通キャリア・スキルフレームワーク活用ツール（CCSF Tool）」を提供する。

※ご希望の方は、「共通キャリア・スキルフレームワーク活用ツール利用申込書」にご記入の上、(ccsf-question@ipa.go.jp) までお問い合わせください。

<CCSF Tool の特長>

- ・ 企業は、自社の経営戦略や事業計画より「タスク」（求められる仕事）を明確にすれば、必要なスキル、知識が定まり、自社に適した役割分担として「人材像」を作成することができる。
- さらに、育成に活用できる「情報処理技術者試験」の科目までを一気通貫に明確にすることが可能となる。



CCSF Tool を用いた各社ごとの人材像の策定イメージ

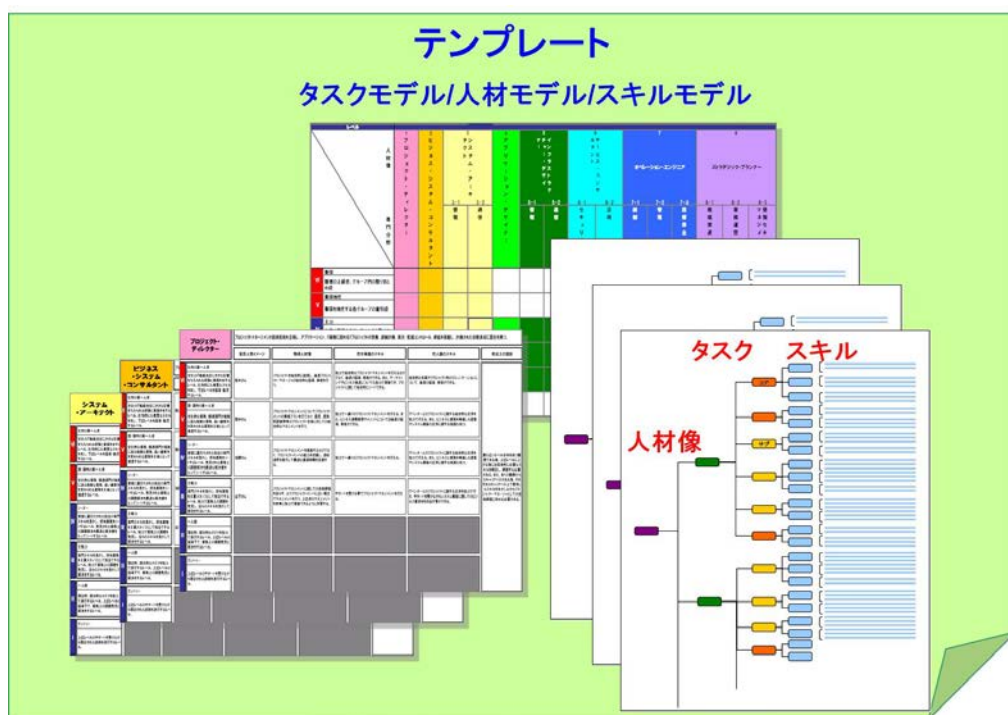
(4) 今後の予定

①スキル標準の改訂方針

今後の改訂については、CCSFの枠組みに沿って進めていく予定である。

②必要となる人材像やビジネスモデル別のテンプレートの公開

技術の進展や、役割の多様化に対応していくため、今後は、CCSFを活用して、求められる新しい役割像（新人材像）例を定義していくとともに、中小企業等に向けた特定のビジネスモデルにおける役割分担を例示したテンプレートを順次公開していく予定である。



公開していくテンプレートのイメージ

③CCSFデータの更新

CCSFは、今後のITスキルの拡張や、ビジネスモデルの多様化、人材像の変化に対応して適宜データセットを更新し、各社に利活用しやすいように、スキル標準の共通のインターフェース、定義情報として管理していく予定である。

4. 公開資料

- (1) 「共通キャリア・スキルフレームワーク（第一版・追補版）」
- (2) CCSF モデル一覧
- (3) 「共通キャリア・スキルフレームワーク（第一版・追補版）コンテンツ活用ガイド」
- (4) 「共通キャリア・スキルフレームワーク活用ツール（CCSF Tool）操作説明書」
- (5) 共通キャリア・スキルフレームワーク活用ツール利用申込書
- (6) CCSF データセット（CCSF_ER 図、CSV ファイル）

（資料入手先 URL <http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/ccsf/download.html>）

以上

■ 本件に関するお問い合わせ先
IPA IT 人材育成本部 島田 / 柴崎
Tel: 03-5978-7501 Fax: 03-5978-7510 E-mail: ccsf-question@ipa.go.jp